

ありのままを受けとめる

江津市立江津中学校 三年 山藤穂乃

世の中には様々な人がいます。自分の個性などを前面にうち出せる人もいれば、内に秘めている人もいます。その違いは、受けとる側の姿勢によって大きく変わってくるのだと思います。内に秘めている人は、何か言われるかもしれない、バカにされたり、いじめられたりするかもしれないという不安からありのままの自分であることが難しいのだと思います。

先日、進路説明会が行われました。私は今まで、制服といえば、女子はスカート、男子はスラックスという思い込みをしていました。しかし、リボンとネクタイ、スカートとスラックスから性別関係なく選べる高校があることを知りました。私は小学校の時は私服だったので、自分の好きな服装をすることができていたけれど、中学校に入って、制服という縛りができたことに抵抗があった人もいたのではないかとその時以来考えるようになりました。そんな中で、私は島根県出身でジェンダーレスモデルやタレントとして活動されている井手上漠さんの存在を知りました。井手上さんは、SNSなどで「自分には性別はないです」と話しておられます。しかし、このような結論にたどりつくまでには様々な壁があったようです。「気持ち悪い」小学校高学年の頃にそう言われた井手上さんは、肩まであった髪をバサリ切り、なるべく周りの男子に合せようと努力しました。しかし、本当の自分とはどんどんかけ離れていってしまうことに苦しみを感じていたそうです。そんな井手上さんを救ったのは、ありのままの井手上さんを否定や拒絶することなく尊重し続けた家族の存在だったとありました。今、井手上さんらしく堂々と活躍することができるのは、それを受け入れる人や場所があるからこそだと思います。

では、もし私だったらすぐに受け入れられるのだろうか。自分らしさや個性を受けとめるという点で考えてみました。

私はソフトテニス部に所属していました。ある大会で、他校の一学年下の人と組む機会がありました。彼女は、はじめて話をしたときから、私のことを下の名前で呼び捨てで呼んでいました。私は少し驚きました。なぜなら、初対面で呼び捨てされるという経験が今までにほとんどなかったからです。彼女は、一試合目を終わると、肩を組んでくるようになり、二試合目が終われば、江中のテントで堂々と楽しそうにお弁当を食べていました。三試合目を終わる頃になると、私は彼女の家族構成から、テストの点数まで教えてもらうようになりました。今まで周りにはいたことのないタイプの人だったので、戸惑い、少し引いてしまっている自分がいました。家に帰ってから、母に彼女の話をすると、「そんなに気さくに話しかけてくれたり、仲良くしてくれる子で良かったね。」と言われました。そんなとらえ方もあったのかと私はなんだか急に景色が開けたような感覚になりました。視点を変えてみると、このフレンドリーさは彼女のとても良いところだと気づきました。試合中、私がミスをしてしまったり、ボールがとれなかったりしてしまっても、彼女は前向きで明るい声をかけてくれました。そのおかげで気持ちを切り替えてプレーをすることができました。そ

う整理をしていくと、このフレンドリーなところが彼女の強みであり、大きな武器なんだと受け入れることができました。今では、大会や練習試合などで会ったときに、彼女が手を振ってくれたり、話しかけてくれたりすると嬉しいと思える自分がいます。

今までの私は、私の価値観の枠の中で人と接し、判断をしていました。しかし、それは間違いでした。今回の経験から、様々な人がいるんだ、という多様性を認め、偏見を持つことなく、広い心で色々な視点からその人を見ることが大切だと気づきました。みんなが個性を前面にうち出して、ありのままにいられるようにするためには、その人のよさや強みを否定したり、拒絶したりするのではなく、理解して受け入れようとする姿勢が必要です。人の個性は十人十色。一人ひとりがその人らしく輝けるような社会を実現させるために、まずは自分にできることをひとつずつでもしていきたいです。